

東北新聞

本報創刊二十二年
年報三萬二千餘
中報一萬二千餘
無報一萬二千餘
刊休無中
日新報社
石城部
石井部
石井部
石井部

民政黨石城部會の袖領

比佐、野崎二氏に警告

石城民政部會が、縣參事椅子争ひ以前から勢力争ひをして来たが、野崎、若松二縣議の完全なる分離となつた。その裏面の隔絶が更に延長して比佐野崎二氏の公認争ひまで波及して来たのである。二十五日の豫選會では比佐派が俱樂部に集合して議事をすすめて、一方、有聲座には野崎氏の精鋭が對立して二百餘名が對立して、それ、議事をすすめて、確實在且つ事務的に進めしめた結果として石城民政黨部會は二ツ新生の聲を擧げるに到つた。

主張するべきその一つは、假面をはがれなければならぬとすれば、その一つは、露は尾花と寝たといひ、尾花は露と寝たといふ。果しなき争闘も選挙委員が各部會から十一名宛福島支部に押し寄せ最高幹部ごころに具陳した結果が亦甚だ面白い、その何れにも花を持たせてやるべきであるといふ場當りの決裁をしたのであるまいか。

握手して野崎氏が比佐氏に自己の雅量を表示した直後に比佐氏擁立派の闘士連が野崎派の聲明を宣傳とは虚無であると、更に聲明書を福島市、即ち支部の足下で起案し發表したことは、野崎氏が支部からのお墨附きを汚くしたことに非ならうし、折角と腹の虫を納め

なからうか。比佐氏が、總選挙に直面して野崎氏、この事あるは決して當を得たるものではなからう。野崎氏が部會内に有する勢力といふものも決してあなごみすべきではないことも知悉してあるであらう、殊に野崎氏が常に積極的の進出をして侵略せる地盤そのものが、いかに有力であるかを知らば比佐氏ご、その一黨は黨人ごしての野崎氏ご交歓すべきである。

比佐氏が、断々乎として野崎氏の不信を鳴らして排撃することが不可能である限り、野崎氏の勢力をうけ入れることが賢明なる一策ではなからうか。生ま温るい間柄としてのみ、する、延長して行くのであらば、それは隔絶であり、無限に一致をみざる二條の併行線のそれであらう。

厳正なる批判を加へんとするべき吾人の叫びは神聖であり得る。政黨人ごしての野崎氏を断然黨規をみだす人ごしての處断の舉に出づるだけの力が比佐氏にあり得ないならば、断して論争をすべきではないであらう。

論争の結果、その自己満足といふ快味に酔ふ、その一瞬間を得るために、比佐氏が大業を放ちやくするのであらうならば、勿論、議論の餘地があり得ない。百尺竿頭……進一歩すべきである。一度死することが、再び生くることである。大死一番せよ。これ刻下の現状を救ふ唯一の大道であるまいか。と佐氏が、野崎氏のふところに投じて仕舞ふことは大死であらうが、それと同時にそのことが、大きい生ではあるまいか。いろ／＼に見られる感情のスパイクで亂舞すること雄心を抱く男子の爲すべきことではないであらう。

交錯した凡てに超越するの眞勇があれば、英雄の偉業は成ると同じ意味に於てと佐氏が、野崎氏の幕下に雄伏することは最上の策であらう。雄伏することは決して屈辱ではないのである。完成途上の準備行為であらう。大なるんとして先づ小なるものは、大なるんとする前提である。野崎氏、また黨人であるシ烈なる愛黨の精神に富んだ人である。幾度か、忍んだ人である。比佐氏の恬淡な態度、その謙讓を見たとき、必ずや温かい手を差し伸べるであらうことを信じてやまざるものである。眞に憎み合ふことの出来る人こそ、眞に愛するこの出来る資格者といふことが永久への眞理であるべきを知るべきである。

さらば、兩君よ、戰場にて逢はう……

石城民政は結局

血で血を洗ふに至る

民政黨石城部會の比佐、野崎二氏、圓満解決を見た。然るに兩派では支部の調停に不満を抱き再び分裂して、問題と、悉くあらそひ、双方が報告的の聲明を發表して来た事は、屢報の如くであるが、今回の公認問題に關しては支部でも部會も、問題は血で血を洗ふの重の將來に一大禍根を残すも大問題が惹起するので一般のとなし二十七日兩派を妥から非常に注目されてゐる。

野崎氏の如き闘士が、民政黨から喪失することがいかに損失であるかは部會多數の認識する所であらう。比佐氏は一つを捨てて、五つを獲得すべきであるし、野崎氏は泣いて自己を責めた後に、比佐氏を迎へ入れるためには温情を以て、一席を設けるべきである。總選挙の門出に、朝野の二大政黨がその三軍を整理して發せんとす。新戰場に金鼓が鳴る。部隊は肅々として持場を固守してゐる。この二大政黨に執つて民政黨が絶對に勝たねばならぬ戦であるし、政友會も負けてはならぬ戦でもあり、使命戦でもある。

大義の爲めに比佐氏も忍べ野崎氏も忍べ

政友會も負けてはならぬ戦でもある。大義の爲めに比佐氏も忍べ野崎氏も忍べ

大義の爲めに比佐氏も忍べ野崎氏も忍べ

大義の爲めに比佐氏も忍べ野崎氏も忍べ

大義の爲めに比佐氏も忍べ野崎氏も忍べ

大義の爲めに比佐氏も忍べ野崎氏も忍べ

大橋軍事劇

吳服類數千圓を

萬引さ犯人逮捕

伊關吳服店等も御難

雙葉郡木戸驛前の青木某

伊關吳服店等も御難

伊關吳服店等も御難

伊關吳服店等も御難

伊關吳服店等も御難

伊關吳服店等も御難

伊關吳服店等も御難

◆劇代時作特起活日◆

浪赤穂

原作：大佛次郎 監督：志波西果

東京日日新聞・大阪毎日新聞：連載

松竹蒲田名作中の巨篇！
原作：菊地 寛先生
監督：池田 義信氏
主演：岡田時彦入社第一回作品
栗島すみ子・高尾光子

堀田隼人の巻
(巻五十全)

▲主演者▼
大河内傳次郎 光岡龍三郎 伏見直江 梅村蓉子 葛木香一 市川小文治 瀨川銀潮 實川延一郎
●其他オールスタ
ーキャスト

明眸禍

巨篇

明ばう禍中……文藝小唄
ひつと瞬きや心のばらも
ほろり歎きの風に散る
風に散らうと 如何うせうとまよふ
美くしいひとみに 何罪あらふ
罪は浮世の人にある
◆明ばう禍の歌
聲樂獨唱……松浪悦子嬢

一月二十九日替り

入場料第一等協定額破
料第一等協定額破
料第一等協定額破

平 館

正月二日市初賣出し

自製靴？

ドン底の機性的正札ヨリ一割引ト

一日ヨリ……五日間

大奮發の景品進呈

二日市午前一時開店仕り候

一番より十番までのお客様に

お祝儀……特別景品……進呈

節約は足下から？ 品物は商店：御選擇の上

例年の通り タトイ十銭でもお買ひ上げを

平町田町 電七〇二番

大塚支店製靴部

舊正月二日

三井の初大賣し

平素の御愛顧に酬ゆる御禮として

破格の廉賣と大景品の提供

▲大景品提供▼

御買上金高 金十圓以上 正絹縞
金二十圓以上 新大島
金三十圓以上 新名仙
金五十圓以上 高貴織
金百圓以上 九帶

◎商品券御買上にも景品同様
當日は混雑しますから商品券御買上願ひます

三井呉服店

……的術藝し用應を光採の新最は影撮
すまし致製調を真寫……

門專像肖

館真寫島中

……てに法光採の特獨館弊は影撮間夜
んせまりあり變と影撮間畫……

丸昇軒 電話四三九

平看護婦會 平町南町

ミテ阿康藥店 電話四四番

體溫計 寒暖計 蘭内藥局 電話四〇二番

●舊正月二日より
三日まで

景品付大賣出し

時計・眼鏡・蓄音機・貴金屬

ダイヤ堂 鈴木時計店

福島縣平野前(新道)
電話(呼)八〇五番

正札堂の
景品付大賣出し

お買上

五圓以上 茶メリヤス箱入中等品一枚

拾圓以上 毛布一枚

貳拾圓以上 茶色上等毛布一枚
又モヂリ外套一枚

參拾圓以上 茶色上等毛布一枚
布二枚續き一枚

五拾圓以上 セルコート又黒羅紗モジリ一枚

百圓以上 絹朱子裏二枚

◎正月二日三日の二日間
●モヂリ外套、トンビ、コートマント……特賣

正札堂洋服店 平四丁目(停車場前通)

★卒統郎太幸橋大★

主催 帝國在郷軍人會石城聯合分會
帝國在郷軍人會平町分會

催 平町青年團

●見て面白くためになる！

連鎖劇 再度の御奉公

連鎖劇 別世の光人

大連鎖 國の光人の妻

喜劇 親の光は七光

連鎖劇 軍神乃木將軍

●涙と笑の大連鎖劇！

一月卅日(舊元日)より五日間
毎日午後五時より 平町聚樂館にて

座一大團陽太 劇育教

◎御子様の祝品賣出し

破魔弓 は

スガノヤ提灯店

平町四丁目
電話七二二番

舊正月二日三日
福引景品付初賣出し

御買上金一圓毎に福引券一枚差上ます

桐タンス

鏡臺、食卓、戸棚
衣桁、鏡臺、食卓
洗面吸わん十八前箱入、食卓
菓子器、上等塗盆
上等蒔繪付塗盆
弊店名入手拭、狀差
ふき掛、くけ臺、手拭等

●全部家庭用品を差上ます
午前二時より三時までには御來店のお客様には特に
副景品を差上ます

平町一丁目
和久井屋漆器店 電話四〇五番

世界一の的藥人 王
責任無効返金

此の有名な美神丸を、夫婦仲のよくなる美神丸を數ヶ年に亘る悪性の子宮病に悩む人を研究を數として發明したる理想的藥劑

主婦之友、婦人俱樂部、婦人世界、婦人世界等有名四大雜誌に効果が發表になつてあります

定價一週分四十錢 十週分參圓五拾錢

平町古鍛冶町(縣社下)

地方代理店 阿康藥店 電話四四番

舊正月元日より有効

有聲座割引券あり

平白銀町力ド

丸山雜貨店